

藤沢（神奈川県）

## 保育所を会議所内に開設 女性の活躍や人材不足解消の一助に

藤沢商工会議所は2月1日、藤沢商工会館ミナパーク1階に企業主導型保育所グリーンキッズ湘南ミナパークをオープンした。仕事と生活の調和「ワークライフバランス」の実現を目指して、内閣府が推進する企業主導型保育事業に基づいたプロジェクトだ。

同所は、会員企業の働き方改革の一つとして、「仕事と子育ての両立」に不安を持つ従業員が安心して就業を続けられる環境づくりを後押しするため、社会福祉法人喜寿福祉会の協力を得て、今回の保育所設置を実現した。

クラス編成は0歳児クラス6人、1歳児クラス12人、2歳児クラス12人の合計30人。このうち会員企業従業員枠20人、地域枠10人と設定している。生後6カ月から受け入れ可能で、保育料は認可保育園とほぼ同等だ。同所の増田隆之会頭は「女性が活躍できる機会をつくるとともに安定就業を実現し、人材不足の解消にもつなげたい」と期待を込めている。

2月現在、地域枠で0歳児と1



▲広く清潔感のある保育所の室内

歳児、計8人の子どもが入所しているが、希望者が多く、今後面接などを通して順次受け入れを進めていく予定だ。JR藤沢駅に近いことや、午後8時までの延長保育を行うこと、保育所の運営事業者が認可保育園を市内で3カ所運営しているなど信頼性が高いことなどが人気の理由に挙げられる。

同所は、会員企業の従業員が利用しやすいよう4月から月額保育料の助成を検討している。

鯖江（福井県）

## 鯖江の眼鏡、東京・青山で新作披露 1万4500人が来場

鯖江商工会議所は2018年11月30日〜12月2日、東京・青山で「鯖江の眼鏡」の魅力を全国に発信する「TOKYO MEGANE FESTIVAL」を開催した。同所は18年6月から福井県や鯖江市、福井県眼鏡協会、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科と連携し、眼鏡の産地としてブランドディングを図る「01プロジェクト」を推進、市内の眼鏡会社約30社が参加して消費者に響く商品の開発に挑んできた。今回のイベントはその成果の発表の場だ。

初日は表参道のオープンスペースCOMUNE 2ndでオープニングパーティーを開催。会場には眼鏡メーカー19社の最新モデルを中心に展示したほか、眼鏡を試し、撮影してもらった。12月1日と2日は、青山通り沿いの国際連合大学で、プロジェクトに参加した26社が

展示された鯖江の眼鏡  
▼出展した26社や関係者が集合



▼展示された鯖江の眼鏡  
▼出展した26社や関係者が集合



各社12製品を出品する展示・販売会を開催。ビンテージ品のフリーマーケット「ロウ・トーキョー」に出展するデザイナーやセレクトショップと協業したオリジナル眼鏡などが注目を集めた。

同イベントには3日間で延べ1万4500人が来場。展示品の売り上げは予約受け付け分を含め目標を上回る875万円を達成した。「参加事業者はこの3日間を通じて消費者の反応を肌で感じ、鯖江の眼鏡のポテンシャルを確信したようだ」と同所は話している。